



土坑SK200
平安時代中期

溝SD135
平安時代中期

堀SD100
平安時代後期

土坑SK121
平安時代後期

土坑SK99
平安時代後期

溝SD256
平安時代後期

方形周溝墓SD111
弥生時代後期

土坑SK43
平安時代中期

溝SD222
平安時代後期

土坑SK48
平安時代中期

平安時代後期
 平安時代中期
 弥生時代後期

第3面遺構平面図（平安時代後期以前） S=1/200



所在地：京都市東山区五条橋東4丁目450外

調査期間：平成30年12月3日～継続中

調査面積：993平方メートル（予定）

はじめに

当地周辺は古代以前から続く葬送の地で、平安時代には鳥辺野と呼ばれていました。鎌倉時代に入ると鎌倉幕府は、西国の御家人や朝廷の監視のため探題（六波羅政庁）を設置することになり、その六波羅政庁の範囲にも想定される地区です。また、江戸時代の寛永18年（1641）音羽屋惣佐衛門が若宮八幡宮門前で窯を開き、京焼・清水焼と呼ばれる産業が当該地周辺に発達します。当地には浅見五郎助窯が造られ最近まで京式登り窯が存在していました。

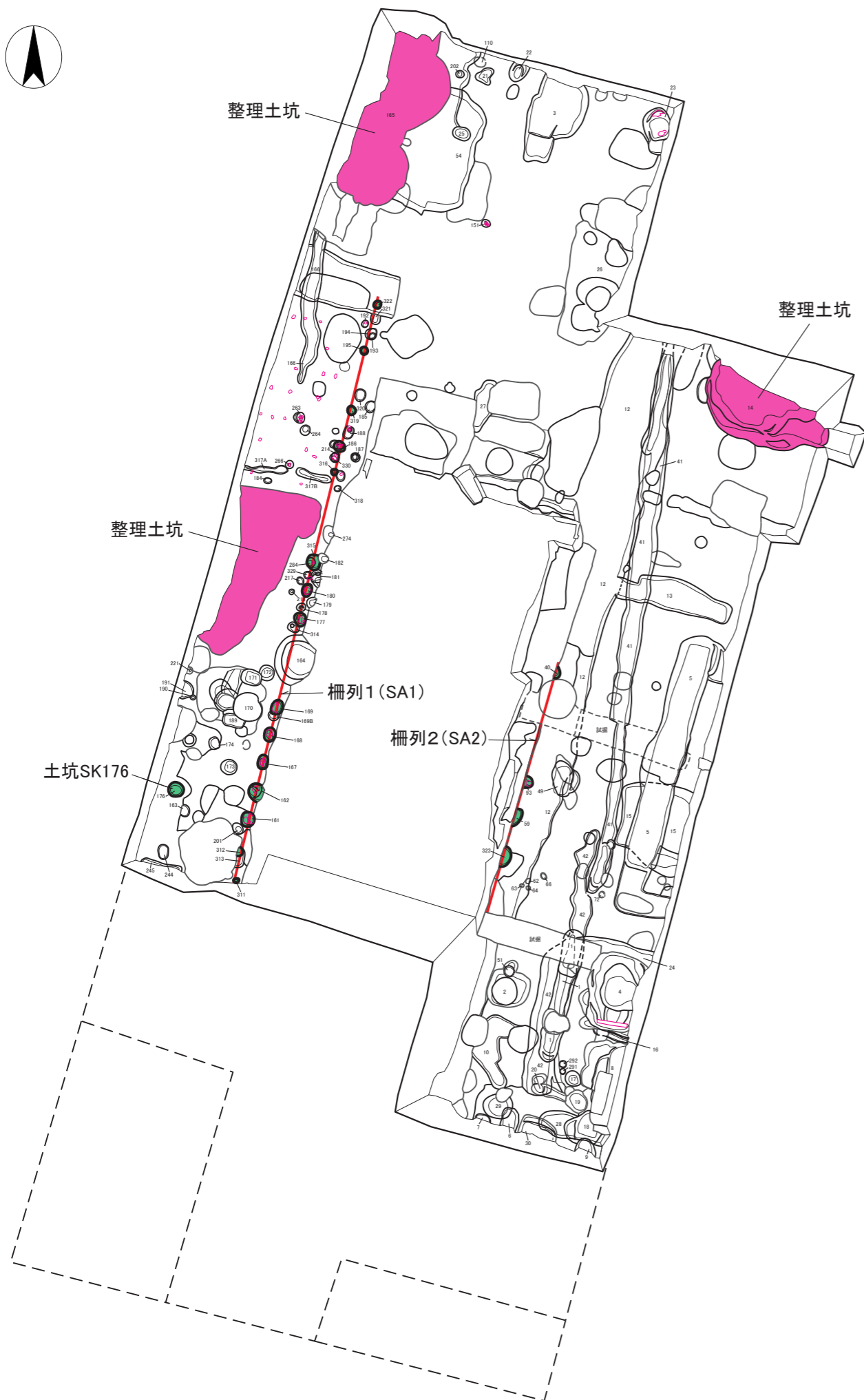
見つかった主な遺構

1面の遺構 (江戸時代以降)	柵列2条(柵列SA1・2) 整理土坑	
2面の遺構 (室町から鎌倉時代)	土坑SK55 井戸SE88 柵列2条(柵列SA3・4) 溝SD303	土坑SK55 室町時代 井戸SE88 円形石組 室町時代 柵列SA3 南北方向・柵列SA4 東西方向 室町時代? 溝SD303 東西方向 鎌倉時代? 堀SD100と同じ位置に成立する
3面の遺構 A(平安時代後期)	土坑SK99 土坑SK121 溝SD222・256 堀SD100	土坑SK99 滑石製品出土 平安時代後期 土坑SK121 傘塔婆?出土 平安時代後期 溝SD222・256 平安時代後期 堀SD100 石垣・版築を伴う 多量の土師器、木製塔婆出土 平安時代後期
3面の遺構 B(平安時代中期?)	土坑SK43・48・200 溝SD135	土坑SK48 木棺墓 溝SD135は土坑SK200を囲む区画溝?
3面の遺構 C(弥生時代後期)	溝SD111	方形周溝墓 主体部は不明 溝内より弥生土器出土

まとめ

今回の調査で注目できる成果としては、堀SD100の発見があげられます。

出土した遺物から六波羅政庁成立よりも古く、平清盛と並行する時代の遺構です。平氏は清盛の祖父平正盛が現在の珍皇寺周辺に居を構えてのち六波羅一帯に惣門・南門を造り、一族による一大軍事拠点となる集住を行っていたとされています。今回の調査では、建物などの発見がなされていませんが、今後の調査成果の積み重ねにより往時の六波羅から清水一帯の様子が明らかにされていく一助になると思われる成果です。



第1面遺構平面図（江戸時代以降） S=1/200



第2面遺構平面図（室町～鎌倉時代） S=1/200

